

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0971000328		
法人名	社会福祉法人邦友会		
事業所名	おおたわらマロニエホーム		
所在地	大田原市北金丸2600-8 (電話) 0287-20-2505		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日、平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤9人(うち兼務1人), 常勤換算8.2人	
	7 人	常勤7人(うち兼務1人), 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費—650円/1日 ・共益費—200円/1日 ・理美容代, おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国際医療福祉大学クリニック、国際医療福祉病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>県北部の国際医療福祉大学の同一敷地内に設置されている当ホームは、立地の利を活かし、デイサービスセンター、障害児・者施設、大学(学生ボランティア)との連携がとれている。また、クリニックが隣接しており医療面等の対応が充実したホームである。日々の生活の中で入居者の意向を大切に、「その人らしさ」を尊重したケアを管理者及び職員が実践している。地域との交流について、傾聴ボランティアとして地域住民の週2~3回定期的な訪問があり、地域の方々と積極的に交流を持てる環境づくりを行っている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点については、運営推進会議で意見交換している。自治会長の協力もあり、地域住民の交流の場が多くなったことや午後の入浴や夜間入浴を可能にするなど改善を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は自己評価票を全職員に配布して、職員と意見交換をしながら管理者がまとめるかたちで実施した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者代表、入居者家族代表、自治会長、民生委員、市介護保険担当者、地域包括支援センター職員等を中心として2か月に1回開催され、ホームの活動状況を報告し、各委員から意見や助言が積極的に出され、ホームの運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に積極的に家族からの意向を聞き、入居者の日々の生活の様子や職員の異動などを伝えるよう努めている。毎月ホーム便りを家族に送付している。金銭管理については、ホーム便りにコピーを同封して家族の訪問時に確認のサインをもらっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の協力により傾聴ボランティアが週2~3回ホームを訪れ、入居者及び職員と交流が深まってきている。また、ホームの様々な行事に参加を呼びかけて積極的に地域の方々と交流の機会を設けている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の一つとして「地域との交流によって豊かな人間性を醸し出す」と地域との関係性の大切さを掲げ、その実現を図るための実践を行っている。その他に「人間としての人格と尊厳を最後まで保証する」「その人らしさと個々の主体性を尊重した支援をする」「愛情のこもった温かみのある介護を提供する」「安全で健やかに生活できる環境づくりに努める」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に管理者と職員が理念と運営方針を唱和し、支援のあり方について確認し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、自治会長の協力により回覧板等が回ってきたり、地域の運動会・どんど焼き・神社の太子祭などに積極的に参加して交流を図っている。地域の方たちに呼びかけて、ホームの夏祭りに参加してもらえるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の課題であった地域との交流については、気軽にホームに来てもらえる雰囲気づくりに努め、地域のボランティアの方々との交流が増えたことによって改善が図られている。今回の自己評価は自己評価票を職員全員に配布して、職員と意見交換をしながら管理者がまとめた。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、入居者家族代表、自治会長、民生委員、市介護保険担当者、地域包括支援センター職員、法人職員等で構成され、2か月に1回会議が開催されている。会議ではホームの活動状況を報告し、委員から意見や助言をもらって運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、運営推進会議以外の話し合いの機会はないが、分からないことがあれば日常的に電話で問い合わせを助言をもらっている。また、ホームで行事を実施する際に参加してもらえよう通知するなど、市との関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ユニット毎に入居者一人ひとりの家族にお便りを送付して入居者の健康状態や日々の暮らしぶり等を細かく報告している。職員の異動の紹介も併せて行っている。金銭管理については出納帳の写しをお便りに同封して確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事で家族がホームに訪れた際に声をかけて気軽に意見や希望を話せるような雰囲気づくりに努めている。意見や要望があった場合には、速やかな対策を検討して日々のケアに反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は法人内で特別養護老人ホームが新設されたため職員の異動があったが、本年は異動はなく、退職者が2名であった。職員の異動は同一敷地内となるため、異動した職員もホームに頻繁に顔を見せるなど入居者のダメージを少なくする配慮がされている。訪問日にもそのような様子が見られた。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に基づいて職員が研修に参加している。外部研修については職員の経験年数に応じた内容、業務上必要な内容を勘案して受講できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着サービス協会の月1回の定例会や市のケアマネジャー連絡協議会に参加しており、研修会や意見交換等、交流を図っている。	○	管理者については、市主催の様々な定例会等で交流を図っているが、職員についても今後、相互訪問等を通して他事業所職員との交流を持ち、サービスの質の向上に役立てる機会をつくっていくことにも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談の段階で家族に分かりやすく説明し、ホームを見学してもらい、家族が納得してから本人に見学してもらう手順となっている。見学時には本人の得意とすることや和むような話題をあげ、本人がホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを的確に把握しながら職員と一緒にいることで、お互いが支え合う関係を大切にしながら支援している。職員は料理の味付け、野菜づくり、郷土の風習等について入居者から教えてもらう機会をつくっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から入居者一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。意向の把握が困難な方については、家族から情報を得たり入居者のしぐさや表情をうかがいながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人や家族から十分なアセスメントをしており、また入居者の担当職員の意見を聞き、本人及び家族の意見を聞きながら介護計画を作成している。介護計画は、日々のケアの中で職員間の共有も図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画の評価を行い、6か月ごとに見直しをすることとしているが、状態の変化が見られた場合には本人や家族と話し合い、適時見直しをしている。作成した介護計画については、家族の同意・署名をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内に法人の医療機関があり、入居者の急変時の対応が速やかにでき、また通院が必要な場合は家族の状況に応じて職員が同行して受診するなど柔軟な支援に努めている。		

おおたわらマロニエホーム


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医で受診できるよう支援している。受診の付き添いは原則として家族が行うが、通院時には家族が困らないように通院用シートを作成して家族に提供するなど細かな配慮がされている。家族が都合で付き添えない時は家族の了承を得て職員が付き添い、受診結果を家族に伝えている。協力医療機関である国際医療福祉大学クリニックの医師が回診をしてくれるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、家族と相談しながら病院に入院するケースがほとんどである。	○	運営規程や契約書等に基づいた対応をしているが、終末期・看取り等について管理者及び職員は重要性を認識している。今後、法人の医師や運営者等とも相談しながら終末期の支援のあり方について話し合いを重ねていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で共有を図っている。また、個人の情報が記載されている書類については持ち出しを禁止するなど個人情報保護を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めておらず入居者一人ひとりの体調や天候に配慮しながら支援している。訪問日にも職員と散歩に出掛ける方やリビングで職員と話をする方が見られた。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と一緒に話し合って職員が作成し、調理や盛り付け、片付けを入居者と職員が協力して行っている。職員1名は検食のため同じものを食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、13:30~17:30の時間帯で行われている。入居者の希望によっては毎日の入浴が可能になっている。今後は希望があれば夜間の入浴を支援したいと考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理が得意な入居者には調理を、農業を営んでいた入居者にはベランダにある畑で野菜づくりなど入居者の得意なことやできることに配慮した役割の支援をしている。また、入居者と職員と一緒に買い物に出掛けるなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買い物や外食の機会を月に1~2回設けている。またユニットごとに車での遠出や近隣にドライブ・外食に出掛けたりしている。また、入居者の体調や天候に合わせて日常的に敷地内を頻繁に散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが十分な見守りを行っているため、日中は鍵をかけていない。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の各施設と合同で消防訓練・避難訓練を毎月実施し、加えてホーム独自で年2回消防署立ち会いのうえ訓練を実施している。地域の消防団との連携が図られ、災害時に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分摂取についてチェックし、記録している。栄養バランスについては、毎月の献立へのアドバイスを栄養士からもらって献立づくりの参考にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者の作った作品や絵が飾られ、テーブルには季節の花が飾られていた。テレビの音について入居者に確認しながら音量を調整するなど居心地良く過ごせる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前自宅で使用していたソファやテーブル、イスなどが持ち込まれ、テーブルに好みの花や写真が飾られるなど入居者が居心地良く過ごせるような居室づくりがされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。